

---

# 環境問題

境康隆

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

環境問題

### 【Nコード】

N3094Q

### 【作者名】

境康隆

### 【あらすじ】

環境問題。それは一人一人の問題

「綺麗な金魚鉢ね」

女は男の部屋に入るなり、先ずは目についた金魚鉢に感歎の声を上げた。小さな器に、水草と魚が一緒に入れてある。魚自体は金魚ではなく、何か他の小さな魚だった。

「いいだろ？ お気に入しさ。環境問題を考えるには、もってこいでね」

「確かに、日頃からエコがどうか、地球環境がどうか、うるさいものね。そうね。こんなに綺麗な水と魚を見ると、私もエコと自然とか考えちゃうわ」

「熱心だと言ってくれよ。このマンションも、エコを考えて選んだんだけ」

「へえ。普通のマンションに見えるけど？」

女は部屋を見回しながら、リビングのソファに腰を下ろした。

「はは。エコロジーだからと言って、特別我慢する必要はない。ということかな。普通に生活しているだけで、この部屋なら地球環境に優しい暮らしができるんだ」

「へえ。すごい。でも、高くつかないの？」

「いや、そんなことはないよ。これが先月の請求書。電気代や水道代を見てご覧」

「えっ、安い。でもこのエコ負担金で何？」

「エコ発電装置の維持管理費や、ゴミリサイクル費だね。後はその他の日常生活における、環境ニュートラル負担金。もちろん水処理費も入ってる。相応の負担だよ。ま、その他に、水は毎日一定量を使わないといけないけどね」

「何で？ それで、エコになるの？」

「元より環境に配慮して、このマンションは建てられているからね。指定されている水量程度じゃ、普通の水道水をちよろちよろ使うよ

り、断然エコなんだよ」

「ふうん。どうして？」

「数は力だからね。一定の水量がないと、肝心のエコの処理がうまくいかないからだよ」

「へえ、そんなものなの？」

「そうだよ。でも、いい部屋だろ。電気も水も安くつくよ。で、ここからが本題。ねえ、ここに住みたいと思わない？ 二人でさ」

「え？ そんな。急に言われても……」

女は戸惑いに辺りを見回す。

奇麗に整頓された部屋だ。余計なものが何もない。男の一人暮らしにしては、随分とさっぱりしている方だろう。

奇麗な金魚鉢のあるこの部屋は、まるでその金魚鉢そのもののように見えた。何と言うか、余分なものや、不純なものが、そう環境に悪そうなものが何もないのだ。

それが男の誠実さや、実直さを表している。

そう素直に感じたられ女は、

「こんな私でよければ……」

と、男の申し出を受け入れた。

「あなた。最近この部屋、水の出が悪いのよ」

妻となった女は、夕食の席に着きながら夫に相談を持ちかけた。

女がこの部屋に住み始めて数ヶ月。エコ生活を満喫していたが、ここ数日は水道の出が気になっていた。

「そうかい？」

「そうよ。そりゃ、節水だって言われれば、我慢するけど。むしろ一定量を使えって言われてるぐらいでしょ、ここ？ でもいくらエコでも、全く出ないのは話にならないわ」

「そりゃ、そうだね」

「ねえ、管理会社に電話してよ。あの魚みたいには、私達はいかないもの」

女は結婚を決めた時に見た、金魚鉢に目をやる。一度も餌をやった覚えがない。元より密封されており、餌のやりようがないのだ。夫によると地球環境を模した、閉鎖系と呼ばれるシステムとのことだった。魚を水草と一緒に入れ、十分な太陽光にあてる。それだけで酸素と二酸化炭素、その上餌に栄養素まで、この狭い金魚鉢の中だけで自己完結するらしい。互いの老廃物が栄養になるのだ。

もちろん誰も、水すら換えたことがない。

実際にはどんな魚でもよい訳ではないらしい。少々低酸素の為、それを問題としない頼もしい魚が入られているとのことだった。「分かった。今から電話するよ」

こちらで頼もしい夫はすぐその場で電話を始め、妻はその様子を誇らしげに見つめた。

「で、その頼もしい夫と、何で別れたの？」

「だって」

そう訊かれて女は、転がり込んだ先の友人の部屋で口を開く。

「だって、上の階の人が自殺していたのよ。浴槽で手首切って、数週間そのままだったんですって。湯船に少しずつ水を出しながらね。でね、分かったの。私達はあの金魚鉢の魚だったってね。一定量の水を使うことで、上から下へ水を循環させていたのよ。エコ負担金でね。ううん。そんなことは問題じゃないの。だってあの人は」

女はそこで、一度大きく身震いをした。

「あの人は 環境ってそんなもんだろって、それでもそれを『問題』にしなかったのよ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3094q/>

---

環境問題

2011年1月24日17時45分発行